

◆三宅和広議員 本日3番手、政和会3番手、議席番号3番の三宅和広でございます。

午前中は、政和会の横綱2人がこの場に立ちましたが、午後からは政和会の序の口3人から質問をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして、質問をさせていただきます。今回は、観光誘客事業についてお尋ねしたいと思います。

山形県商工労働観光部が昨年8月にまとめた平成26年度山形県観光者数調査によると、市町村別の観光者数は、1位が739万人の鶴岡市、2位が583万人の山形市、3位が361万人の遊佐町、4位が343万人の寒河江市、5位が275万人の酒田市、6位が240万人の天童市でした。天童市が上位であり安心しましたが、反面、天童市よりも人口の少ない遊佐町や寒河江市から100万人以上差をつけられていることに驚きました。

また、天童市で平成26年度に実施した市民満足度・重要度アンケート調査の「観光誘客」についての調査結果では、重要度が3.824、満足度が2.832でした。重要度については、平均が3.588であるのに対し、3.824ですので、高く評価されていると思います。また、重要度の順位でも、48項目の中で12番目ですので、重要であると考えられる市民の方が多いと言えます。一方、満足度のほうは、平均が2.997であるのに対し、2.832と低く評価されています。満足度の順位でも、48項目のうち42番目ですので、十分には満足されていない状況であると言えます。観光誘客については重要であると考えられているものの、満足されていない状況です。今後改善していかなければならないと思います。

天童市の観光に関する施策については、第6次天童市総合計画の中に第2章第2節「観光の活性化と魅力ある商業の形成」の第1項「にぎわう観光」として、天童市における観光活性化のための方策と施策を定め、さらにその前期期間の検証を行った上で、後期計画として「未来創造重点プロジェクト」を定めています。また、その計画達成に向け「3カ年実施計画」として年度ごとの事業計画を定め取り組んでいます。また、さらに、天童市総合戦略においても、観光に関する戦略を定め、観光振興を図ろうとしています。

今後、これらの計画と総合戦略が着実に実行され、観光施策について市民の皆様から満足していただけるものになるよう願うところです。

さて今回、政和会では、観光振興施策の先進的な取り組みを調査するため、福岡県久留米市、山口県下関市、山口県萩市を視察してまいりました。久留米市では「久留米市観光・MIC E戦略プラン」というものを、下関市では「下関市観光交流ビジョン 2022」というものを策定していました。また、萩市では萩市総合戦略において、基本目標の第1番目として「歴史、文化、自然を生かした観光のまちづくり」を掲げ、市の観光戦略としていました。単独の観光戦略を策定した久留米市、下関市、また、市の総合戦略の筆頭目標に観光を掲げた萩市、3つの市とも、観光に力を入れていこうという意気込みを強く感じられました。

今回は、この3市での取り組みを参考にしながら、天童市の観光誘客事業についてお尋ねしたいと思います。

まず初めに、質問事項の1番目「コンベンション誘致」についてお尋ねいたします。

先ほど御紹介いたしました「久留米市観光・MICE戦略プラン」の「MICE」とはローマ字でM、I、C、Eと書き、企業や学会が行う会議、企業等が行う研修旅行、展示会、見本市など、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称だそうです。いわゆる「コンベンション」と理解してよいものと思います。久留米市では、このプランの基本方針の一つとして「戦略的なMICEの誘致」を掲げ、平成31年度までにMICE開催支援件数を100件にするという目標を掲げています。学会などの大規模な会議は参加者数が多く、しかも滞在日数が長く、さらに期間中に歓迎レセプションが開催されたり、また、参加者が周辺を観光したりするなど、大きな経済効果が期待されると言われています。そうしたコンベンション誘致は今後、観光振興にとって重要性を増すと考えますが、市ではどのように考えているのかお聞かせいただきたいと思います。

次に、質問事項の2番目「教育旅行の受け入れ」についてお尋ねいたします。

萩市では、20年前には30万人ほどあった修学旅行客が現在は23万人程度に減少しており、そのうち、市内に宿泊するのは3万人程度にすぎず、ほとんど通過型であるとのことでした。萩市では、教育旅行の受け入れを増やすとともに、市内での滞在時間を長くする取り組み、市内にお金が落ちる取り組みの必要性を感じているとのことでした。

「教育旅行」とは、修学旅行や遠足、合宿、野外活動のような学校行事の一環として行われる旅行とされています。近年は、体験学習が重視されるようになってきたため、ただ観光地を見て回るだけでなく、現地で何かを体験して学べるようなものが求められているようです。

この教育旅行は、規模が大きく、期間も長いため、大きな経済効果が望まれると言われています。また、終了後においても、家族と再び訪れたり、児童・生徒が大人になったときに再び訪れたりすることが期待されます。そのため、教育旅行の受け入れを増やすことは、短期的にも長期的にも観光振興にとって必要であると考えます。

市内の小学校が天童高原で実施しているスキー教室は教育旅行に該当しますが、そのほかには教育旅行として受け入れた件数は少ないのではないのでしょうか。私は、天童市に県外のどこそこの中学校が修学旅行に来たという話を聞いたことがありません。天童が現在持っている資源を生かせば、天童でも教育旅行を受け入れることができるのではないのでしょうか。例えば仙台市内の小学校や中学校、高等学校から天童に来ていただき、天童高原でのスキー教室、農業体験、天童木工のような工場の見学、書き駒の体験など、いろいろとできることはあると思います。

教育旅行の誘致は観光振興にとって、今後重要性を増すと思いますが、市ではどのように考えているのかお聞かせいただきたいと思います。

次に、質問事項の3番目、インバウンド需要の取り込みについてお尋ねいたします。

観光振興にとってインバウンド需要の取り込みは今後、ますます重要になってきます。国や県はもとより、現在どの市町村においても課題として取り上げ、取り組んでいる状況だと思います。久留米市、下関市、萩市においても、他言語による案内表示、Wi-Fi環境の整備、消費税免税店の整備、デビットカードが利用できる環境整備、他言語による情報発信、さまざまなニーズに応じた観光商品づくり、ターゲットを絞った観光客誘致など、取り組みがなされていました。

天童市ではインバウンド需要の取り込みについて、どのように取り組まれているのかお聞かせいただきたいと思います。

最後に、質問事項の4番目、おもてなしの雰囲気づくりについてお尋ねしたいと思います。

観光振興にとって、市全体でもてなそうという雰囲気は、観光客に好印象を与え、魅力ある観光地であると感じていただくために大切なことだと思います。久留米市では「まち旅博覧会」と称して、住民みずからがプログラムを企画し、住民みずからが訪れる人をもてなす体験交流型観光プログラム、このプログラムを久留米市では通称「まち旅」と呼んでいます。このまち旅を年間 80 プログラム実施していました。多くの住民が観光に携わり、市全体でもてなそうという雰囲気が感じられました。

また、下関市では、全市民が観光客の質問に適切に対応できるよう市民総観光ガイド化を目指して、「関門海峡歴史文化検定」というものを実施するとともに、観光客への声かけポイント制度や全世帯への観光ガイドブックの配布を検討しているとのことでした。

萩市では、まち全体が博物館であるとする萩まちじゅう博物館構想を立ち上げており、この構想を推進する上で、ボランティアガイドが重要な役割を担っていました。市内各所で黄色いジャンパーを着たボランティアガイドを見かけることができました。また、萩市では「見る観光」から「学ぶ観光」への転換を目指しており、そのために市民、関係団体が一団となり、取り組みを推進しているとのことでした。

以上のように、3市とも多くの市民が観光に関わりを持ち、市全体でもてなそうとする雰囲気づくりのためにいろいろな取り組みをしていました。

天童市では市民参加の観光を目指して「再発見ツアー」、「わがまち観光講座」、「観光ボランティアガイドの育成」、「観光推進懇談会の開催」などの事業に取り組んでいますが、これらの事業内容と事業効果についてお聞かせいただきたいと思います。

以上、1回目の質問といたします。

◎山本信治市長 三宅和広議員のご質問にお答え申し上げます。

初めに、観光誘客事業についてのコンベンション誘致について申し上げます。

コンベンションの誘致につきましては、一般財団法人山形コンベンションビューローと連携を図り、進めております。具体的には、全国規模の 200 人以上の宿泊を伴う大会等の参加者に1人当たり 1,500 円の宿泊補助を行っております。平成 26 年度は、学会等の参加者 800 人に補助金を交付しました。このほか、天童温泉のホテル、旅館においても、旅行業者と連携し、各種大会等の招致を進めております。コンベンションの開催は、地域活性化に大きな効果をもたらしますので、今後も積極的に誘致を進めてまいりたいと考えております。

次に、教育旅行の受け入れについて申し上げます。

山形県では、教育旅行の誘致強化を図るため、3月下旬に市町村観光協会、業界団体などとともに新たな組織を設立する予定であります。そして、市場動向の把握や情報の共有に力を入れながら、大都市圏でのセールス活動を強化すると伺っております。

教育旅行の意義は、児童・生徒に地域の歴史や自然、文化、食などの魅力を知っていただき、また訪れたいというリピーターを獲得することにあります。本市には大勢の団体客が宿

泊できる施設がありますので、関係機関と連携を図りながら、本市独自の魅力を発信し、教育旅行の誘致に努めてまいります。

次に、インバウンド需要の取り込みについて申し上げます。

昨年9月に天童温泉協同組合が台湾で現地旅行会社 20 社を訪問するとともに、28 社が参加した現地商談会を開催しました。市としても、職員1人を派遣したほか、費用の一部を補助したところであります。その成果として、10月から2月までの天童温泉の台湾からの宿泊者数は、前年に比べ533人増加しました。また、4月の桜の時期の海外からの宿泊予約も増加していると伺っております。

今後一層、観光誘客を図るには、インバウンド対策が重要であります。今後とも関係団体と連携を強めながら、インバウンドの推進に努めてまいります。

次に、おもてなしの雰囲気づくりについて申し上げます。

平成26年に山形DCが開催されましたが、これを契機に、観光関係団体において、市全体でおもてなしをしようという機運が醸成されたと考えております。また、御質問いただきました観光ボランティアガイドの育成については、一般社団法人天童市観光物産協会に委託しており、現在、26人のガイドを登録しております。また、ガイドの研修事業として、市民参加型の「再発見ツアー」と「わがまち観光講座」を開催しております。今年度は9月に「再発見ツアージャガラモガラの謎・若松寺めぐり」を実施し、わがまち観光講座は天童織田藩をテーマに11回開催しました。

また、観光推進懇談会は、観光関係団体等から推薦された委員が観光振興について調査研究の意見交換を行う場であります。今年度は10月に開催し、天童桜まつりとインバウンドについて貴重な御意見をいただきました。

本市の観光振興を図るには、今後も市民参加による事業を継続し、我がまち天童に対する関心と愛着を高めることが大切であると考えております。

◆三宅和広議員 ありがとうございます。

コンベンションについてですけれども、コンベンションビューローのほうと連携してということで、200人以上の団体に対して1人1,500円の補助をとというようなことでございましたが、その200人という枠、制限でございますけれども、こういった根拠で200人という制限を設けているのでしょうか。もっと少ない団体であっても、活用してもいいのかなという気がしますが、その辺のところはいかがでしょうか。

◎小川博史経済部長 お答え申し上げます。

今申し上げました山形コンベンションビューローでございますが、これは村山圏域7市7町で構成しておりまして、その中で他の都道府県の状況などをあわせまして、全国大会規模につきましては200名以上、そして国際大会規模につきましては50人以上というようなことで定めております。

なお、このほかにも先ほど市長の答弁がございましたが、この補助金には該当しませんが、やはり天童温泉さまざまなホテル、旅館ございますが、100人程度の規模でかなり独自に

旅行エージェントさんと連携をしながら、かなりの規模のコンベンション、学会、その他大会等を誘致されているというふうに伺っております。

以上でございます。

◆三宅和広議員 実際にかような市でやっている事業とは別に、旅館組合さんとか観光協会さんとかが取り組んでいる事業でコンベンションが来ているというようなことでございますけれども、実際の数というのはわかるんでございましょうか。

◎小川博史経済部長 お答え申し上げます。

コンベンションに限っての人数というのは、我々のほうも伺っておりませんが、今回、一般質問がございましたので、さまざまな資料はいただいております。ただ、各旅館の個別の情報になりますので控えさせていただきますが、年間を通じまして、かなりの学会ですとかさまざまなゼミナール等々ございまして、かなりの数に上ることだけでよろしくお願ひしたいと思っております。

◆三宅和広議員 ありがとうございます。

それで、それぞれの組合で独自にやっているというふうなお話でございました。久留米市の状況でございますけれども、ワンストップ支援サービスというものをやっているということでもございました。会場の手配とか設営、それから移動手段の確保、飲食物の手配、当然昼食とかそういったものを含めまして、こういった関係する団体が一つの協会をつくりまして、一括して受託して対応するというような内容でございます。なぜそういうことをするかというと、主催者を支援するというようなこともございまして、それから、経済効果を地域に波及させるんだというふうなことでもやっているということでもございました。例えば食事の部分が他市に流れたりするのを防いだりというふうなことで有効だということでもございましたので、その辺のところも今後必要なのかなと思っております。いかがでしょうか。

◎小川博史経済部長 観光についてでございますが、やはり広域観光というのが一つのテーマとなっておりますので、天童市だけで完結するというのはなかなか難しい部分がございます。また、コンベンションにつきましても、やはり天童市内で学会等を行っていただきまして、その場所が例えば天童市内の会場である場合もありますし、例えば山形市のスポーツセンターなどさまざまな場所でありましても、やはり天童温泉に御宿泊いただくというふうな形で連携を図りたいと考えております。

また、前回申し上げましたDMOというのが今回立ち上がりましたので、そういった中で山形市さん、上山市さんと連携しながら、さまざまな旅行商品などの企画、販売等も行っていくというふうに考えております。

以上でございます。

◆三宅和広議員 天童市単体では難しいところがあるし、多くでやったほうが効果大きいというようなこともあるんだらうと思います。積極的に天童市もそういったものを活用して取り組んでいただければいいのかなと思います。

もう一つ、ワンストップ支援サービスのほかに、学会とかになりますと、研究者が中心になるわけなんですけれども、研究者との人脈づくりとか、それから、学会の開催情報の情報収集とか、それから、定期的に訪問してコンタクトをとっていく、そんなこともやっているというようなことでもございました。そういった取り組みというものは、このコンベンションビューローのほうではなされているんでございましょうか。

◎小川博史経済部長 お答え申し上げます。

先ほどの 800 人の数字には入っておりませんが、私どものほうではやはりコンベンションビューローのほうから情報をいただきまして、とある学会さんとお話をさせていただきまして、天童市内の旅館、ホテルを御紹介申し上げました。その場合は国際的な学会でございましたので、東南アジアの国々からお客様がいらっしゃるということで、料理をどうするか、あとはベッド等の手配をどうするかなど、そういったコーディネートといいますか、調整をコンベンションビューローのほうで行いまして、その間に私ども入りまして、各旅館さんとの調整を行ったということもございますので、先ほど議員がおっしゃられたような機能につきましても、山形県におきましては、山形コンベンションビューローが担っているのかなと考えております。

以上でございます。

◆三宅和広議員 ありがとうございます。

今後とも積極的にそういった取り組みを進めていただければいいのかなと思っております。

それで、今回の予算書を拝見したときに、観光誘客等支援事業ということで 68 万円ほど計上されておったかと思いますが、こちらのほうはこの山形コンベンションビューローの負担金とは別のものだったと思いますが、これは市の単独の事業ということでよろしいんでございましょうか。

◎小川博史経済部長 申し上げます。

コンベンションビューローの負担金とは別の事業であるということでお答え申し上げます。

◆三宅和広議員 それで、その観光誘客等支援事業でございますけれども、こちらのほうの内容というものは、どういったものなんでございましょうか。

◆三宅和広議員 わかりました。失礼しました。時を改めましてさせていただきたいと思えます。

それでは次、質問項目の2番目になります。教育旅行の受け入れについてお尋ねしたいと思えます。

先ほど、冒頭でお話ししました山形県商工労働観光部が行った観光者数調査というところがありますが、その中に東根市のジャングル・ジャングルというスキー場があります。こちらのほうに県外から4万人ほど訪れているというようなことがデータとして載っておりました。県外からでございますので、多分、仙台市から来る方が多いのかなと思っているところでございます。ちなみに、天童高原のほうは、県外からは4,000人、10分の1しか来ていないというようなことでございました。

ジャングル・ジャングルのほう調べてみますと、仙台からのバス、日帰りバスが運行されていたり、それから、一日リフト券と東根温泉の宿泊がセットになったプランがあったり、そういったこともあったり、あと、ゲレンデ的にもおもしろかったりというのがあるのかもしれませんが、そういったことで仙台から多く観光客、スキーヤーが来ているというようなことでございました。

天童高原とジャングル・ジャングルを比べたときに、地理的にそんなに離れていない。同じ仙台から1時間30分ほどで来る範囲でございますので、天童高原にも仙台から誘客ができるのではないかなと思っているところでございます。

先ほど申しましたように、スキーヤーにとって魅力あるスキー場なのかどうかというのはまだわかりませんが、教育旅行という観点から申し上げまして、仙台市から、先ほど申しましたように、スキー教室のようなものを天童高原に来ていただいて開催できないのかなと思ったところでございます。例えば仙台市の教育委員会のほうとか、それから旅行業者のほうにこういった情報があるよというようなことを提案して来ていただくということも可能かなと思いますが、そういった取り組みというものはいかがなものかでございますか。

◎小川博史経済部長 お答え申し上げます。

天童高原に限ってでございますが、一つだけ御紹介申し上げたいと思うんですが、スキーではなかったわけなんです、昨年度1件、教育旅行というものがございました。昨年9月に新潟県の高校のほうから約225名、大型バス6台で天童高原で芋煮会、そして生徒で考えた野外学習というものを行っているということでございます。こちらのほうは、旅行代理店のほうが仲介しまして、天童高原のほうに足を運んでいただいて、大変楽しく過ごしていただいたというふうなことでございます。

また、今御質問の件でございますが、先ほど県のほうでも新たな組織を整備をしまして行っていくということでございまして、その事業計画が手元に届いたところでございますが、来年度の案でございますが、宮城県内の小・中学校約150校をこの新たな組織、全県的な組織になりますが、そちらのほうで訪問しながら教育旅行の誘致を図っていきたいということでございますので、私どもの天童市としましても、こういった動きと連携しながら、ぜひ天童市内への宿泊、例えば天童高原の御利用ということをお願いしたいと考えております。

以上でございます。

◆三宅和広議員 新潟から 225 名いらっしやったということで、ほかの県からもほかの団体、高校、学校からも来ていただけるチャンスがあるのかなという気がしますので、ぜひいらしていただければよろしいのかなと思っております。

それから、スキー教室に限らず、先ほど申しました工場見学とか、天童木工のほかにもいろいろ見学して意味のあるところはいっぱいあるのかなと思います。それから、体験教室もいっぱい探せばあるのかなという気がしますし、あと、先ほど新潟の高校さんのほうでは、芋煮会のほかに野外活動なんかもやられたというようなことがありました。ハイキングとか、それからパークゴルフの体験とか、登山とか、いろいろな素材を天童市は持っているかと思っておりますので、そういった情報をまとめて提案できるようなものを一つつくっておけば、教育委員会とか旅行業者に行ったときに活用できるのかなと、そこから教育旅行につながるのかなと思いますので、ぜひそういった取り組みをお願いしたいと思っております。

それから、先ほど山形県のほうで4月から新たな取り組みをされるということがございました。これから進めるというようなことだったと思いますが、鹿児島県のほうで行っている取り組みだったんですが、教育旅行を検討している団体、例えば校長会とか、あと父兄会とか、そういった団体に視察を行ってきていただく際に支援をしているというふうなことがございました。そういった取り組みというものは天童市ではなされておりますでしょうか。

◎小川博史経済部長 特に行ってはおりません。

◆三宅和広議員 天童市で独自で行うこともないのかなと思います。山形県で取り組まれますので、その辺のところ、こういったこともやっているというようなことを情報提供していただければよろしいのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、質問事項の3番目、インバウンドでございますけれども、先ほど台湾のほうにいろいろ活動されていてというようなことがありました。こういった取り組みが行われているわけなんですが、この内容はたしか温泉組合さんのほうでやられているものだと思いますが、行かれています、そういったものに参加される方というのは、温泉組合の方が中心というか、温泉組合の人が行かれていますというようなことでよろしいのでしょうか。

◎小川博史経済部長 お答え申し上げます。

温泉組合につきましても、今回が初めての事業でございました。天童温泉協同組合のほうも新たな組織になったということで、8名の方々、ほとんどが旅館の社長さんの方々が行かれたということでございます。それに私どもの商工観光課長が同行いたしまして、合計9名で台湾のほうに行ってまいりました。

以上でございます。

◆三宅和広議員 旅館の社長さん方が行かれたというようなことでございますが、観光をアピールするのに、温泉組合で主催というか、そういったものですので、旅館の社長さんが行かれるのは当然だと思いますけれども、観光というものをアピールするに当たっては、観

光施設の関係者とか、それから天童市で言うと、農家の方とか、そういった方も一緒に同行されたほうが効果があるのかなと思いますが、その辺のところいかがでしょうか。

◎小川博史経済部長 今回が一番の目的が、今回1月から2月、台湾の旧正月に当たりましたので、そこでの誘客活動を行いたいというのが一番の目的でございます。以前ですと、やはり各旅館のほうで、A旅館、B旅館、C旅館が単独でそれぞれ出かけておったわけなんです。今回は温泉協同組合という一つの組織として台湾のほうに出向きまして、あちらの団体様のほうとさまざまな協議をさせていただいた、あと、行政の担当課長が行ったということで、台湾の受け入れ側のほうもそれなりの対応をしていただいたということでかなりの効果があったということでございます。先ほど申し上げた数字につきましても、533名ほど前年に比べまして人数が増えたというような成果が上がっております。

ただ、先ほど市長答弁がございましたが、観光振興懇談会がございまして、このインバウンドについての報告なども行いまして、温泉組合以外の参加者の方からは、今後を見据えて新たな組織の整備なり体制整備が必要であろうということで、いわゆる温泉だけではなくて、例えば天童市内にありますさまざまな企業様のほうからも入っていただいて、もっと受け入れ態勢を整備するべきではないかというような意見もいただいております。

以上でございます。

◆三宅和広議員 今回成果があったということで、今後そういったほかの施設関係者、観光関係者も含めて、そういった取り組みを進められたほうがいいのかかなと思ったところでございます。

それから、インバウンド推進事業関連でございますけれども、免税店というものは天童市内、どのようになっているんでございましょうか。大変話題になっている、大切だ、重要度があるというようなことで理解されていると思いますが、その辺のところ御説明いただければと思います。

◎小川博史経済部長 天童市内にも免税店はございます。大型ショッピングセンターと、あとは温泉旅館等でございます。

以上でございます。

◆三宅和広議員 これは小さな店で開くのは難しいのかもしれませんが、手続を調べてみますと、手続的にはさほど難しくないのかなというところでございますので、もっと広くしていただければいいのかなという気がします。ただ、個人の判断になるのではないかなと思いますが、市としても申請をPR、「こんなに簡単な手続でできるよ」というようなことで、申請のPRなんかもしていただければよろしいのかなと思っております。

それから、デビッドカードというようなことがどちらかの市で行っているというようなことがありましたが、この辺のところ、これも個人の店の事業主の判断になるのかなと思っておりますけれども、こういったものについても、積極的に進めていただければいいのかなと思っ

ております。外国人観光客にとって、魅力ある観光地ということにつながるかと思いたすので、ぜひその辺のところも取り組んでいただければよろしいのかなと思いたす。

最後のおもてなしの雰囲気づくりについてでございますけれども、先ほどもお話がありました観光推進懇談会ということで、調べたところによりますと、24年度に設立されまして、年3回ほど開催されているというようなことございました。委員の方は団体からの推薦された方々というようなことございますが、成果として、先ほどいろいろな組織の方々の意見を聞いて、観光行政に生かせるというようなことがあるというようなことございましたけれども、こちらのほうに市民の方というのは参加されているんでございましょうか。

◎小川博史経済部長 天童市観光推進懇談会でございますが、皆さん市民の方でございますが、ただ、出身母体が経済団体等からの推薦ということでございます。議員がおっしゃるのは、一般市民ということでしょうか。一般市民という形ではおりません。あくまでも、観光についてお話をいただくということでございますので、さまざまな観光関係団体、もしくはそういった団体からの御推薦をいただいた委員の方ということになっております。

以上でございます。

◆三宅和広議員 一般市民の方が参加されていない懇談会だということですが、できれば一般市民の方々の意見というものも必要なのかなという気がいたしますので、そういった、公募になるのかどうかわかりませんが、一般市民の方もその委員の中に含めていただければよろしいのかなと思ったところでございます。

さらに一歩進んで、そういった制度を検討するような会議よりも一歩進んで、実際に観光促進のために活動するような組織も必要ではないのかなと思っております。

先ほど御紹介しました久留米市のまち旅博覧会、こちらは住民みずからがプログラムを企画してつくり上げて、それで住民みずからが活動するというようなことございます。80のプログラムを実施しているということで、本当に観光効果があるというようなことございましたので、そういったことも必要なのではないかなと思いたす。そういったときに、やはり住民を巻き込んだ観光行政というものが必要になってくるのかなと思ったところでございます。

それから、下関市のほうで観光キャンペーン実行委員会というものをつくっております。これも全く市民がボランティアで参加をして、具体的な観光キャンペーンをつくり上げるというような組織になっております。一般観光客向けにいろいろな、テーマ別とかニーズ別の観光誘客施策をみずからつくり上げて、それから365日毎日下関市で楽しめるというようなことにしたいというようなことに取り組んでいるというようなことございました。大変いい取り組みだなと思ったところでございます。

天童市においては、こういった取り組みはなされていないようでございますので、ぜひこういったことも市として先頭を切って先進的に取り組んでいただければよろしいのかなと思いたすところでございます。

それから、ボランティアのほうなんですけど、先ほど私、聞き漏らしたんでしょうか。市民のボランティアが26名ということでよろしかったでしょうか。26名のボランティア、数的に

少ないなという気がします。萩のほうではボランティアは100名おり、黄色いジャンパーを着て、本当に町じゅう、観光地にはどこに行っても姿が見受けられるというような状況だそうでございます。ぜひ天童市もそういったことが必要なのかなと思っております。ボランティアを集めるには、申し出を待っているだけではだめなのかなと思っております。したいと思うよう積極的に仕掛けていくような取り組みが必要なのかなという気がします。

そういったことで、まち発見ツアーですとかわがまち観光講座ですとか開かれているわけなんですけど、こういった取り組み、もっと積極的に必要なかなと思っておりますが、今後拡充していくようなお考えはありませんでしょうか。

◎小川博史経済部長 お答え申し上げます。

観光ボランティアガイドでございますが、26名という登録者でございます。おっしゃるとおり、できるだけ人数を増やしたいとは考えております。現在も観光物産協会のホームページで募集はしております。そして、先ほどございました再発見ツアーの中でも参加者に対して、ぜひあなたも観光ボランティアになっていただきたいというようなことをお願いをしているところでございます。

以上でございます。

◆三宅和広議員 お願いをするだけでは、申し出を待つだけなのかなという気がしますので、もっと積極的な取り組みが求められるのかなと思っておりますので、ぜひ取り組んでいただければよろしいのかなと思っております。

おもてなしというようなことで、萩市で行われていることを一つ紹介したいと思います。萩おもてなし大賞というようなことを行っているということでございました。観光で来られた方でいろいろ親切にいただいた、そういった経験を申請していただいて、その中から「おもてなし大賞」なんていうものを決めまして顕彰するというようなことでございました。そういった取り組みも天童市としてやってみてはいかがかなと思っておりますが、その辺のところ、いかがでしょうか。

◎小川博史経済部長 参考にさせていただきたいと思っております。

◆三宅和広議員 ぜひ参考にさせていただいて、ぜひ取り組んでいただければなと思っております。

観光に関して、全市民挙げて観光振興に取り組んでいるという姿を見せるというのは大変大切なことかなと思っております。そういったことを取り組んでいくことによって、相乗効果で市民も観光に興味を持てただけになるのかなと思っております。冒頭でお話しいたしました満足度もそれなりに上がってくるのかなと思っておりますので、ぜひ市民を巻き込んで観光戦略を進めていただければよろしいのかなと思っております。

以上で質問を終わりたいと思っております。ありがとうございました。